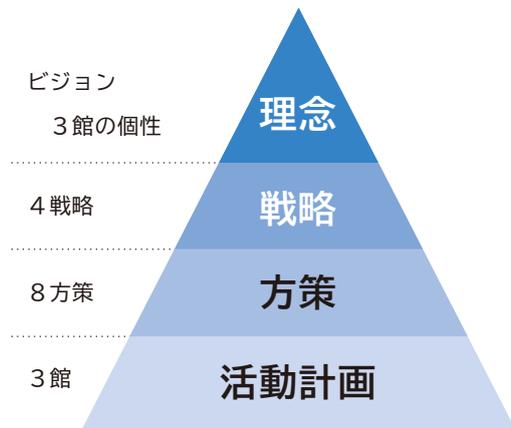


1. 計画の全体構造

理念	ミッション：ホールの役割・存在意義 ビジョン：目標とする未来像
戦略	理念を達成するための手法
方策	戦略に基づく作戦・行動指針
活動計画	3館別で方策を実行するためのプラン



理念

ミッション ホールが中長期で果たすべき役割（存在意義）

根を張ってこそ花が咲く - サードプレイスとしての魅力的なホール -

<p>根を張ってこそ花が咲く</p>	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「根を張る」は基盤づくり、「花が咲く」は魅力づくり。 ・第1次計画でのビジョンを、第2次計画でも継承。 ・切り花のように出来合いの文化を生けかえるのではなく、根のある木花が毎年咲かせる、生きた美しい花のような文化に囲まれて暮らしたい。人の根を張れば、まちの幹が伸び、文化の花が咲く。
<p>サードプレイスとしての魅力的なホール</p>	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人びとが豊かな日常生活を送るためには、家庭、学校・職場のほか、趣味趣向などで結ばれるもう一つの「場」：サードプレイス（居心地の良い場所）が必要。 ・3つの文化ホール（アピオス・みの〜れ・コスモス）は住民の活動の場として定着しており、この活動をさらに展開することで、地域の結節点として、小美玉市の魅力を発信する場として役割を果たすことができる。

ビジョン 第2次計画が目指すホールの将来像・未来像

<p>1. 地域のきずなをホールが結ぶ (誰も取り残さない/QOLの向上)</p>	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サードプレイスとしてのホールの存在価値を高めることで、地域のセーフティネットの1つとして機能し孤立を防ぐことができる。 ・従来からホールに活動基盤がある住民を含め、より多くの人びとが交流し、日常生活の豊かさ・満足度（QOL:クオリティ・オブ・ライフ）を高めることができる。
<p>2. 小美玉の魅力をホールが発信する (市や地域のブランド力向上に役割を果たす)</p>	<p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住民主役・行政支援」の考え方のもと、ホールで企画・イベントを創出することで、担い手としての住民・職員の能力が高まり、より幅広く活動できるようになる。 ・時代の変化をとらえ、新たな企画を創り出すチャレンジを続けることで、小美玉の認知度とブランド価値を高めることができる。

<p>3. 個性豊かな3つのホールが共創する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのホールは、活動拠点とする住民によってそれぞれ個性が定着している。 ・3つのホールの住民が相互に交流することで、それぞれのホールがもつ価値を明確にでき、ホールへの愛着を高めることができる。 ・ホールの価値が明確になることで、3つのホールが相互に連携するだけでなく市内外を超えての文化連携ができ、より豊かな生活を送ることができる。
----------------------------	---

アピオス・みの〜れ・コスモス 「3館の個性」

3館の個性	アピオス 交流と祭り	みの〜れ 未来へつなぐ風・あなたとつくる森	コスモス 悠久の風土を活かす
3館の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・歌謡曲・演歌等の鑑賞事業を行ってきた。 ・住民参加型企画が定着。住民プロデュース企画も生まれている。 ・アピオスばるずを中心にボランティア参加の仕組みを整えている。 ・デジタル技術を使った若い世代向けの取り組みも実施している。 ・商店街や空の交流エリアが近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が中心となる事業を多く実施している。 ・館の稼働率が全国的にも高く、いつも利用者がいるイメージ。 ・常設展示など、いつ来ても何かやっている。 ・芝生広場と一体で、緑が多いステキなロケーション。 ・住民ボランティア「みの〜れ支援隊」が活躍している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさを活かした多様な体験講座ができる。 ・図書館、史料館、しみじみの家、民家園がありコラボ企画ができる。 ・自主事業や貸館事業にとって、劇場の規模が丁度よい。 ・生涯学習＝学びの場として、多岐にわたる活用ができる。 ・霞ヶ浦を望むロケーションがよい。 ・サイクリングロードと連携ができる。
個性への思い	<p>○なぜ「交流」？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの住民が集い、創造する拠点となっている。 ・茨城空港から全国、海外へもつながることができる。 ・デジタル技術を使った交流により、遠隔地からの参加・交流も期待できる。 <p>○なぜ「祭り」？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アピオスで育む文化はこれからも「祭り型」（祭り型：水平、巻き込み、継続性、根を張る）でありたい。 ・長い期間の準備でハレの場をつくっていくのは小川祇園祭とも共通する。関係人口創出の場としたい。 ・日本全国の祭りの課題である「①担い手不足、②マンネリ化、③資金不足、④地域外での認知度不足」を未来のアピオスの課題と認識し、変化を先取りしていく。 	<p>○なぜ「未来へつなぐ風」？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年間で培ってきたノウハウや発信してきたプロジェクトは、全国でも引けをとらない。この流れや想いを未来へつないでいきたい。 ・さらには、心地よく自然に流れる風のように、多くのひとに波及させていきたい。 <p>○なぜ「あなたとつくる森」？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みの〜れの強みは住民参画。多くの住民と関わりながら、さまざまなプロジェクトを発信してきた。 ・みの〜れは、「森に囲まれた劇場」として親しまれている。 ・今後も、「あなた（住民）」と「さまざまなプロジェクト（森）」を「つくって（創って）」いきたい。 	<p>○なぜ「悠久の風土を活かす」？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コスモス周辺には、旧石器時代から続く歴史があること。 ・茨城県指定有形文化財「民家園（旧小松家住宅）」があること。 ・移住者が憧れる里山の風景があること。 ・コスモスから見る霞ヶ浦の眺望が素晴らしいこと。 ・コスモスで活動する「人」、あるいは来館する「人」を巻き込んだ取り組みとしていきたい。 ・体験の場・学びの場を通して、地域や風土への愛着を深めていってもらえるような存在でありたい。